

## 第5分科会

### 仕事の効率化と組織の活性化 を考える

問題提起園 ゆかり幼稚園・どんぐりの森保育園

問題提起者 緒方 愛

#### 1 研究課題

子どもとともに育つ保育者

#### 2 研究・研修の視点

保育者は、子どもにとってよき理解者であり、共同作業者であり、指標となるべき存在でもある。子どもは、人間性豊かな保育者のもとで、安心感や安定感をもちながら園生活を送ることができるようになる。様々な遊びや生活からの学びは、義務教育及びその後の教育の基礎、さらには生涯にわたる人間形成の基礎を培うものである。保育者が自らの経験を豊かなものにする事で、子どもの遊びや生活を深めること、さらには充実させることにつなげていきたい。

子どもとの生活の中で、保育者は日々を学び成長し続ける存在として、出会い、成長を助け、子どもとともに現在を構築し、子どもとの間の体験を省察する。保育を省察するために、保育を互いに見合い、意見交換を重ねることで、保育者自身が園や自分の保育のよさ、及び課題について、深い理解を得ていくように、園全体でも常に教育・保育理念や教育課程を理解し、改善につなげていくことが重要となる。

保育や子どもの姿について様々な観点で、同僚と語り合い学び合う園内研修や、保育者一人一人が自らの持ち味を生かすための、キャリアに応じた断続的な研修の受講は園内の組織の活性化につながる。

子どもたちの人間形成の基礎に大きく関わる私たち保育者は、これからも園内外での研修を充実させ、自己研鑽に努め、子どもたちとともに育ちあいながら教育の質の向上に努めていきたい。

#### 3 主な研究・研修の内容と計画

##### (1) 主な研究・研修の内容

- ・ 仕事の効率化、組織の活性化について意見を出し合い共通理解を図る。
- ・ より良い保育につながる園内研修をおこなう。
- ・ 本研究が、“子どもとともに育つ保育者”にどうつながっていくのか検証する。

##### (2) 研修計画

###### ・ 令和2年度

本園の教育内容、行事の見直しと改善、及び積極的に園内研修を計画・実施し、保育者のキャリアアップを目指す。

###### ・ 令和3年度

前年度の研究を踏まえ、新たな課題の見直しと改善を図る。保育者のキャリアアップがどのように子どもに反映されたのかを検証し、継続した取り組みとなるように位置付ける。

## 4 研究の概要

### (1) 研究・研修テーマのとらえ方

「仕事の効率化と組織の活性化を考える」を研究のテーマとし、「仕事の効率化」と「組織の活性化」という2つの側面から、園の現状を捉えて職員間で意見や課題を出しあい、視点、方向性をより明確なものにし、その上で保育にどうつなげていくか考えることにする。



(付箋を使ったワークショップ)

### (2) 研究の内容

#### ① 仕事の効率化

##### ○ 行事内容の見直し、年間行事・活動に見直しを立てる。

年度はじめに行事の見直しを図り、職員の負担軽減を行ったが、まだまだ改善が必要である。

行事終了後にミーティングを開き、反省と来年度はどうするか改善点まで話し合い記録を残している。記録を残しておくことで次年度、改善点を踏まえスムーズに打ち合わせを行うことができる。

##### ○ 行事等の見える化を図る。

行事を行う際、準備物・配置・片付け方・職員の動き等をイラストや写真付きで明確に記録し残している。次年度この記録を見ながら準備等を行うことにより、時間の短縮や準備忘れ防止につながり、当日の動きも再確認できるようになった。また、もし行事を経験していない職員でも見ながらであれば準備できるという利点もある。

##### ○ コドモンを導入する。

朝の職員が手薄な時間帯での欠席・遅刻の電話に手がとられる。連絡ノートへの対応時間があまりとれない。このような問題点からコドモンというアプリを導入し、連絡ノートの廃止を行った。

##### <コドモンの利点>

- ・ 保護者からの連絡を職員室のパソコンおよび職員個人のスマートフォンで受け付けられる。
- ・ 出欠の確認、お迎え時間、バス乗り場変更、保護者からの連絡等を全職員が把握することができるので伝え忘れを防ぎ、情報の共有を図られる。
- ・ 電話に手をとられず決まった時間に確認するだけで済む。
- ・ クラス便りや園便りをアプリ上で保護者に送信できるので印刷・配布の手間を省き、コピー用紙等の節約にもつながる。
- ・ 緊急連絡や感染症の発生状況などを即時に知らせることができる。

※ コドモンを導入してみて

- ・ 出欠、迎えの時間、子どもの体調把握が短時間で済むようになった。
- ・ 連絡事項が簡素になり、担任の“お返事”に対する負担が軽減された。
- ・ 保護者によっては、活用ができていない人もいる。
  - アプリをインストールしていない。
  - 連絡事項や、送迎の変更など、まだ使用していない人がいる。
    - 園からの発信を魅力あるものに工夫して、活用を促す。
- ・ 曜日や時間に関係なく連絡が入るので、確認や返答に困る。
  - 日曜・祝日及び開所時間外の連絡については、返答が遅れることがあることを前もって知らせるなど、利用のルール作りをする。

② 組織の活性化

- 認定こども園であるが、合同での園内研修が少ない。
  - 0～2歳児、3～5歳児ごとにカリキュラムや一日のスケジュールを設けている。1～2号は一クラスに一名の保育者の配置で人員に余裕がなく、3号はおやつ、午睡等の時間もあるので、両園でまとまった時間を設けることが難しいことが課題としてあげられる。
- 園内研修を充実させ、他の保育者の保育の様子を見て研究できる機会を設ける。
  - 保育活動において子どもたち一人一人に最も適した接し方、教育保育をすることは非常に難しい。また、それは子どもの発達段階でも異なってくる。
  - 園内研修で他のクラスの様子や保育者の教育方法を見ることによって、自らの教育方法を幅広いものにできると共に、自分のこれまでの教育方法を客観的に分析することができる。また、研修担当のクラスの保育者は見学者から改善点を見極めてもらい相乗効果が望める。互いに意見することで相手の考え方をより理解でき、保育者同士の人間関係もより良いものになるだろう。
  - さらに、県の研修会等でその道のエキスパートである講師や関係者に積極的に質問し情報を得ることで保育者として更なる成長が見込めるのではないだろうか。
- マンネリ化を防ぐ
  - 何事も経験を重ねると何か問題が起き、それを解決しなければならない時に過去の事例やパターンなどから最適解を導くものである。大抵の場合、これで難なく解決できるかもしれない。しかし、これで現段階以上の成長がこの先できるだろうか。今よりも更に良くしようと努力しなければ組織は元より個人の活性化すら望めないのではないだろうか。
  - 保育の現場で考えると、まったく同じ性格、パターンの子どもは過去にも先にも一人も存在しない。保育者は今置かれている状況に対して最適な教育を突き詰めていく必要がある、常に流動的にならなければならない。

以上の理由から、園内研究保育を定期的実施すれば、その都度新たな教育方法を見出し、自らの教育を分析、研究できる。組織の一員として保育者一人一人が研修を通して学び情報共有し、それらを自らのスキルとして活用することで組織は活性化できるのではないだろうか。

(3) 研究の取り組み

- ① 行事の見直し、保育の流れを考えた年間計画、教育課程の作成。
- ② コドモンの導入。
- ③ 幼稚園部と保育園部の職員間の共通理解と連携。
- ④ 園内研修会の計画及び実施。(令和2年度は、6月・10月・1月の予定)
- ⑤ 異年齢の関わりを増やす。
- ⑥ 実践事例を研修、研究し保育に反映させる。

(4) 研修、研究の実践例

- ・ 幼稚園部と保育園部の共通理解と連携を図るための打合せレジュメ作成。

(3)－③(別紙資料1)

→レジュメを作成したことで、互いの予定やそれに対する職員の動きが分かりやすくなり、打ち合わせにかかる時間も短縮できるようになった。

- ・ 園内研究の実施。(3)－④(別紙資料2)

→他の保育者の保育を見ることが、よい刺激となり、新しいことに挑戦する意欲や、情報、知識、技術の交換、職員のチームワークの向上につながった。

- ・ サツマイモの苗植えから収穫までを通して、事例を踏まえながら保育の展開を園内研修会で取り上げた。(3)－⑥(別紙資料3)

→学年ごとの実践事例を集めて、活動の流れ、教材や遊びについて考えてみたことで、次年度の保育の幅(選択肢)が広がった。

(5) まとめ・今後の研究課題

今回の研究に取り組むにあたり、職員間で意見を出し合い、話し合いができたことは、互いの考えを知り、共通の課題や園としての方向性を理解しあううえで、かなり有意義であった。今後は、行事の見直しを進めるとともに、実践事例をもとに、園内研修会を行い、より楽しい取り組み・生活の流れを捉えた取り組みができるように目指したい。

研究はまだ始まったばかりであるが、限られた時間の中で、目の前の子どもの利益を最優先としながら、どのように仕事を効率化し、どのように組織を活性化させ、それを保育者自身のキャリアアップにつなげ、さらには、どのように子どもとともに育っていけるのか、少子化、保育者不足等、問題の多い中ではあるが、園全体で協力し合いながら積極的に課題に取り組んでいきたい。

資料1 幼稚園部と保育園部の共通理解を図るための打合せレジメ

### 令和2年度 5月 カリキュラム

日	曜	ゆかり(3~5歳児)	サッカー体操	どんぐり(0~2歳児)	準備等	給食等	その他	出張等
1	金							
2	土					弁当		
3	日	憲法記念日						
4	月	みどりの日						
5	火	子どもの日						
6	水	振替休日						
7	木	衣替え(夏服着用)					体操教室	
8	金							
9	土					弁当		
10	日							
11	月	個人面談						
12	火	交通安全教室	サッカー	交通安全教室				
13	水	内科検診10:00~		内科検診10:00~	職員健康診断			
14	木	(春の親子遠足)				弁当	体操教室	
15	金			誕生会(ほし組)				
16	土					弁当		
17	日							
18	月							
19	火		サッカー				中央中職場体験	
20	水				6月カリキュラム 誕準備			
21	木	誕生会					体操教室	
22	金	避難訓練	↓	避難訓練				
23	土					弁当		
24	日							
25	月		ひよこ・こあら		自由遊び環境準備			
26	火	自由遊び		自由遊び				
27	水							
28	木		ほし				体操教室	
29	金	月末統計	ぞう		徴収袋渡し(6月分)			
30	土	(土曜参観)						
31	日							

園だより29日 クラスだより15日、29日 エンジョイタイム、音楽教室日程、キラキラお話の会  
父の日試作 尿検査日 熊毛発表にむけて

<活動>

- ・母の日のプレゼントを作る
- ・友だちと仲良く、給食・お弁当を食べる
- ・交通安全教室に参加する
- ・避難訓練に参加する
- ・内科検診を受ける
- ・春の親子遠足に参加する
- ・植物を育てる

<うた>

おべんとうのうた  
おかあさんのうた  
ふしぎなポケット  
せっけんさん  
ことりのうた  
こいのぼり  
おはようクレヨン  
園歌

<目標>

- ・集団生活の決まりを知る
- ・自然の変化に気付き植物を育てる楽しみを知る
- ・健康、安全に生活する方法を知る

<努力目標>

- ・挨拶や返事は元気よくしましょう

<その他留意事項>

- ・コロナウィルス感染拡大防止に努める
  - ・手洗い指導
  - ・マスク使用
  - ・消毒液使用
  - ・毎朝の健康観察、検温

※土曜預かりは原則、前週の火曜日が申し込み締め切り

・クラスの野菜栽培計画  
苗とりまとめ 日まで  
11日の週に植える

※自由遊びの環境準備をどうするか

※コロナウィルスの影響により  
14日(木)親子遠足 } 中止  
30日(土)土曜参観 }  
個人面談は今後の状況で判断

資料 2 園内研究保育 保育指導案

令和元年度 園内研究保育指導案 5歳児

<p>幼児 の 実態</p>	<p>○卒園に向けての充実期に入ってきているが、保育者の話を半分聞いてだけで予測して動いてしまう子どもや、人の様子保育者の動きが気になり、場所や時間を考えずに質問や行動をとってしまう子ども等、落ち着きの無い事もしばしばある。 ○体を動かすこと、リズム遊びは好きで、進んで行っている。全員がスキップできるようになり、動きながら友だちとの間隔を意識できるようになってきている。 ○今日は、全園児を対象としたリズム遊びに参加し、年長組として手本の動きができるように援助していきたい。</p>		
<p>ねらい</p>	<p>○曲をよく聞いて楽しく活動する。 ○お話「森のこっこさん」をもとに、友だちとイメージを共有し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。</p>		
<p>時間</p>	<p>幼児の活動</p>	<p>指導上の留意点</p>	<p>準備・その他</p>
<p>10:00</p>	<p>○遊戯室に集まる(全園児)  ○ピアノにあわせて体を動かす。 ランニング、スキップ ケンパ、スライド など</p>	<p>○ホールの左右に分かれて座り、裸足になる。(靴、靴下の扱いに注意する)  ○いつも通りに進め、心と体がほぐれて、動きやすくなるようにする。</p>	
<p>10:20</p>	<p>○お話「森のこっこさん」を振り返る。 ・登場人物に関心をもつ</p>	<p>○子どもの様子を見て3歳児から5歳児までが理解できるように補足を入れながらゆっくり振り返る。</p>	<p>・「森のこっこさん」のお話を事前に(お話の時間に)素話で聞かせ、関心をもたせておく。</p>
<p>10:30</p>	<p>○表現遊び「森のこっこさん」をする。 ・うさぎ・・お腹がすいている ・モグラ・・迷子 ・ねずみ・・風邪をひいている ・こっこさん・・卵を産む ・キツネとこっこさん</p>	<p>○言葉がけを多くし、お話のイメージ、動物のイメージを共有する。  ○個々の動きを認め、楽しく動けるようにし、子どもからの表現や言葉を取り入れていく。  ○友だちの動きにも関心をもたせる。  ○保育者が、キツネになる事でお話の世界(表現)をより豊かなものにする。</p>	
<p>10:50</p>	<p>○活動したことについて話し合う。 ・今日は、どんなことをしたか ・どんなことが楽しかったか</p>	<p>○次回につながるように話し合いをすすめる。楽しかったと言う気持ちで、終わり、次に期待を持てるようにする。</p>	
<p>11:00</p>	<p>○各保育室に戻る。</p>		
<p>反省</p>	<p>・3歳から5歳までの幅が広く、共通理解を図るような言葉掛けが難しかった。 ・思った以上に、子どもたちが楽しみ、ひとつ一つの活動に時間をかけたので、時間内で予定の保育内容を終わらせることが出来なかった。 ・参観という客観的な立場で、クラスの子どもの様子をみることができ、新しい発見が出来た。 ・リズム遊びをすることは、体の使い方だけでなく距離感や他者とのスピード感、話を聞く力、できたことからくる自信など、得られることが多く異年齢の刺激にもなるので継続した活動として、また職員研修の場として園全体で取り組んでいきたい。</p>		

資料 3 園内研究 サツマイモの苗植えから収穫までの活動

